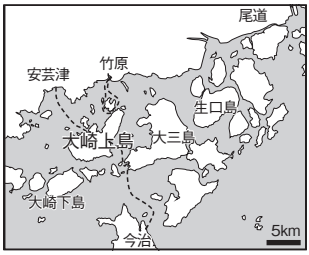
❶大崎上島（広島県大崎上島町）――広島商船高等専門学校

《人財》育成の充実をめざす高等専門学校

広島商船高等専門学校　副校長・電子制御工学科教授　松島　勇雄



大崎上島：瀬戸内海中央に位置する芸予諸島の島。面積38.34km²、周囲60.9km。大崎上島町は平成15年に島内3自治体が合併してできた。人口7,890人（平成28年9月現在）。造船と柑橘栽培で知られ、「教育の島」として特色を打ち出している。

●交通の大動脈・瀬戸内海の中央部にある大崎上島

古来、瀬戸内海は交通の大動脈であり、大陸文化の日本への流入、交易の交通路として中心的な役割を果たしてきました。瀬戸内海の中央部にある大崎上島は、古代からの水軍の拠点、室町時代以後の朝鮮通信使の海路、国内荷物の大量移送の航路にあたるといった歴史的背景のもと、造船・海運技術の継承地としての地位を築いてきました。大崎上島町の地区名である木江（きのえ）・鮴崎（めばるさき）・矢弓（やゆみ）は、海運業界では全国的に名前を馳せています。

●開校一一八年目を迎える高等専門学校

広島県竹原市からのどかな瀬戸内をフェリーで三〇分、大崎上島の白水（しろみず）港に着きます。港から県道を反時計周りに車を走らせ数分、岬を廻ると真正面に船（練習船広島丸）、その上に見える高台に白い五階建ての建物が見えてきます。この建物が広島商船高等専門学校（以下、広島商船）の校舎で、学生七四〇名の学び舎です。

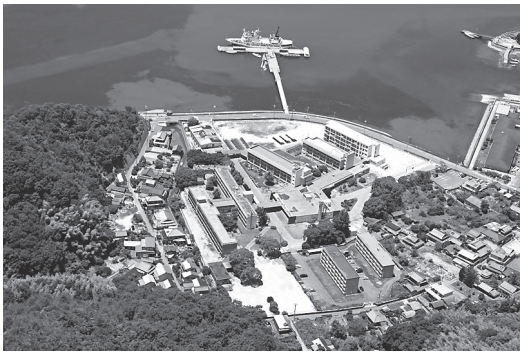
この学校は、江戸時代末期から明治時代にかけて活躍した豪商で、海運・造船・塩田・酒造業で財を成した望月東之助の提案により明治三一（一八九八）年に一二カ町村組合立芸陽海員学校として創設されました。今年で創基一一八年です。

本校は、離島であるこの大崎上島（旧東野町矢弓。現大崎上島町東野）において、約一〇〇年以上にわたり商船教育を行ってきました。商船学校を卒業して外国航路の船舶職

員になることは「民間の外交官」（昭和中期頃）といわれるほど、高い資質を有する優秀な船員を輩出してきた伝統ある学校です。昭和の末頃まで全寮制の男子校で、今様にいえば、離島留学などにみられる「まるごと島体験」による教育の先取りをしていたといえます。

本校のここ半世紀の変遷は、昭和二六年に文部省（当時）に移管されて商船高等学校と改称、同四二年に国立広島商船高等専門学校（入学定員：航海学科・機関学科ともに一学級四〇人）となりました。同四四年には海運業の強い要請に

広島商船高等専門学校校舎遠景と練習船広島丸。



上空から見た
若潮寮（学生寮）など。

表１　広島商船高等専門学校の変遷

年月日	変　更　事　項	学科（学級数）
昭和 26. 4. 1	文部省に移管され，広島商船高等学校と改称	
42. 6. 1	国立学校設置法の一部改正（昭和42年法律第18号）により広島商船高等専門学校となる	航海学科（1） 機関学科（1）
44. 4. 1	国立学校設置法施行規則の一部改正（昭和44年文部省令第8号）により航海学科1学級（定員40人）増設	航海学科（2） 機関学科（1）
60. 4. 1	国立学校設置法施行規則の一部改正（昭和60年文部省令第9号）により航海学科1学級（定員40人）を流通情報工学科1学級（定員40人）に改組	航海学科（1） 機関学科（1） 流通情報工学科（1）
63. 4. 1	国立学校設置法施行規則の一部改正（昭和63年文部省令第7号）により航海学科（定員40人）及び機関学科（定員40人）を商船学科（定員40人）に改組	商船学科（1） 電子制御工学科（1） 流通情報工学科（1）
平成 16. 4. 1	独立行政法人国立高等専門学校機構法（平成15年法律第113号）により独立行政法人国立高等専門学校機構が設置する広島商船高等専門学校となる	商船学科（1） 電子制御工学科（1） 流通情報工学科（1）

出典：広島商船高等専門学校沿革概要

より、航海学科が一クラス増設されて二学級になり、商船系学科三学級制となりました。現在では、商船学科、工業系学科の電子制御工学科、流通情報工学科の計三学級からなるこぢんまりとした学校です。

学生は、中学校卒業後から二〇歳までの五年間（商船学科は五年半）をかけて卒業します。これまで産業界に七〇〇〇名以上を輩出し、社会から高い評価を受けています。本校では、学生の八割が寮生活をおくっており、学寮生活を通じての人間形成、「豊かな心、生きる力および規範意識の育成（人間力と規範意識）」を教育目標の一つとして教育・研究活動を行っています。

●「教育の島プロジェクト」の推進

大崎上島は人口八〇三七人、世帯数三八九〇世帯で、高齢化率（六五歳以上）は四二・八パーセントと非常に高い現状です（平成二七年の広島県平均は二三・九パーセント、全国平均は二三・〇パーセント）。少子高齢化の厳しい状況に対して、町では「教育の島プロジェクト（人材育成）」構想を推進しています。

学校教育による「大崎上島学」の実施、住民による「食育」などを通じてまちづくりに役立てると同時に、生活、産業・観光・商業振興を強化しているところです。「大崎上島学」は、大崎上島の豊かな自然・文化を受け継ぎ、磨くことにより郷土愛を醸成する取り組みです。

●積極的な存続を図る大崎海星高校

広島県立大崎海星高校は平成一〇年、県立大崎高校（昭和二年三月設立）と県立木江工業高等学校（大正八年六月設立）を統合して発足し、同時に造船科、機械科の募集を停止して総合学科に改編しました。いま、地元唯一の高等学校の廃校を阻止すべく、大崎上島町が積極的に支援しています（その取り組みと成果は、本誌二四八号の特集記事「大崎海星高等学校　高校存続に向け、町と高校の連携による魅力化を」参照）。

なお、旧木江工業高校は全国的にも珍しい「造船科」を有し、日本の基幹産業を支える人材育成の一翼を担ってきましたが、平成九年度で七九年間の歴史に幕を閉じました。日本に数えるほどしかない、特徴ある専門高校でしたが、その関連産業の経済的な衰退が強く影響した結果であると考えます。

表２　旧・県立木江工業高等学校の学科・卒業生数

学科名	卒業生数(名)	備　　考
造 船 科	2,831	昭和9年3月に造船分科として発足
航空機科	276	昭和9年3月に航空機分科として発足
機 械 科	1,373	昭和20年10月航空機科から変更
計	4,480	

出典：広島県立大崎海星高等学校の沿革概要

●開校予定のグローバルリーダー育成校

広島県は、中高一貫教育校である「グローバルリーダー育成校（仮称）」を大崎上島町大串地区に平成三一年四月一日開校予定です。定員は三六〇人（中学校：一学年五〇人、高等学校：同七〇人）、全員が寮生活をしながら、英語でのコミュニケーションをはじめとした、異文化交流を含む教育を志向します。広島県のホームページでは、「広島県、また日本が直面する様々な危機を乗り越えるための教育の方向性を見定め、『主体的な学び』を進める上での課題解決を目指し、『学びの変革』を先導的に実践する学校を目指す」としています。

この新しい人材育成校の開設は、大崎上島住民の希望の一つになるほど、話題性のある出来事といえます。

●《人財》育成を目指す「COC事業」

広島商船の特長は、①一〇〇年以上の伝統ある学校、②研究機関である学校、③若い学生がたくさんいる学校と

生徒たちが参加した東野住吉祭の櫂伝馬競漕。

木江地区で実施した野賀海岸清掃の様子。

障がい児との雪遊び交流体験。

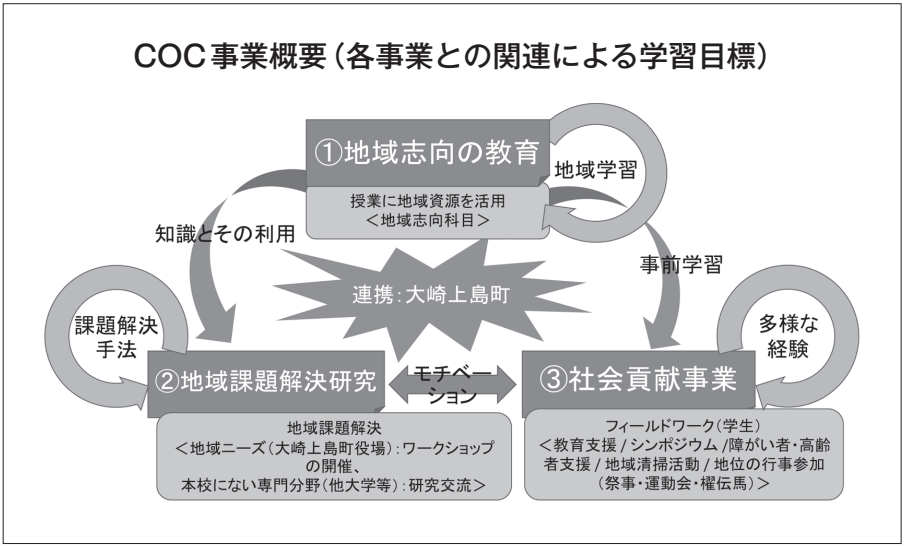
いわれています。

これらの特長を活かし、広島商船のさらなる《人財》育成を目指した教育への取り組みの一つとして、平成二五年度より五カ年計画で文部科学省の「地（知）の拠点整備事業（ＣＯＣ事業）」に採択されたことがあげられます。地域志向の教育・地域課題解決研究・地域貢献を推進して、「学生が地域を愛する教育環境を整備し、その結果として地域への就職増」につなげることを目指しています。

大崎上島町は全域が離島であり、少子高齢化の進展など日本が抱えている課題の先進地域で、一方では自然環境や永く継承されてきた暮らしなどの地域資源が豊かであり、気候が温暖で住みやすい地域です。交通面では多少の不便さはありますが、これらの地域資源を活かした教育を展開できる最適地であるともいえます。

ＣＯＣ事業は、「地域志向の教育」「地域課題解決研究」「社会貢献事業」の融合により、学生の能力の総合力を身に付ける教育を行います。

障がい児を抱いて神峰山に登る生徒たち。



●感性やリーダーシップの育成を目標に教育改革を

「地域志向の教育」として、離島資源を活用して、課題を理解してその解決に向けた知識を学修すると同時に、実験実習・演習・卒業研究により課題の分析および解決手法も学びます。その結果、卒業後もそれぞれが住む地域の課題解決を行い、地域社会に貢献できる社会人になることを目指しています。

「地域課題解決研究」は、離島課題研究として一二領域の研究分野に取り組み、計七〇件（平成二七年度）の離島・地域研究を実施しています。本校が有している知的資源を活用して地域産業の課題解決に取り組み、産業振興に貢献できる技術により地（知）の拠点としての充実を行っています。

「地域貢献事業」では、さまざまな事業に参加する形をとっています。内容は、①小中学生を対象とする教育支援、②住民を対象とする生涯学習、③障がい者・高齢者支援活動、④地域イベント参加などです。学生が地域の行事に参加することに対し、住民の方々から高い評価をいただいています。

今年度はＣＯＣ事業の四年目で、住民との緊密な関係を構築しつつあり、地域住民の方々にも若者との交流を通して身近な学校と感じていただいているようです。変化の激しい社会に適応した学校の経営が求められている状況の中で、今後は学生が技術・知識の習得をするに留まらず、豊かな人生を送るための感性やリーダーシップを育成することを目標に教育の改革を進めていきます。■

大崎上島中学校で行った出前授業。

「希少野生植物の現状と保護活動」講演会の模様。

松島勇雄（まつしま いさお）

広島県大崎上島町（旧大崎町）出身。広島商船高等専門学校電子制御工学科在職。平成25年度文部科学省「地（知）の拠点整備事業」採択2年目より実施責任者に従事し、地域志向の教育・課題解決研究・社会貢献事業を担当。